

○検定について

①令和6年度全商ビジネス計算実務検定では出題範囲の変更はなし

②第148回(令和6年6月実施)からの変更点

1. ビジネス計算部門

「定価」の表記は、第147回検定まで「予定売価(定価)」としましたが、第148回検定から「予定売価」とします。

2. 満点賞について

同一回に第1級の2部門を受験し、2部門ともに満点を得た者。

第148回検定以降は、各試験試験場校で普通計算部門300点、ビジネス計算部門100点の受験者は満点賞となる。(採点箇所以外の診査は不要だが、3審まで実施すること)

③その他

- ・採点基準については、一切生徒への配布を禁じます。

(答案審査上の留意点などが書かれたもの)

- ・令和6年度からの検定研修役の方法

令和6年度より新検定Webシステムのサービスを利用し、意見集約を行います。

昨年度までは、本部校が取りまとめて回答をお願いしておりましたが、試験条項から直接ご意見をいただきます。

- ・令和6年度以降の検定試験における経費精算について

令和6年度から新全商Webシステムの導入により、検定試験運営にかかる経費は、検定試験実施後に、検定委員会及び試験場校の各学校から全商協会に実費経費を申請いただき、その後、全商協会から各学校の指定口座に振込をする流れに変更になります。全商協会から実費経費が入金されるまでの間、検定委員会及び試験場校では立替払いが生じることになります。

④今後について

- ・現在ビジネス計算部門1級と2級で出題している手形割引の問題については、第153回検定(令和8年11月)までは現行通りの問題を出题。第154回(令和9年6月)以降の出题については今後検討をしていきます。

- ・令和10年度以降の三種目以上1級合格者表彰の変更について

ビジネス計算実務検定ではこれまで、珠算と電卓でそれぞれを1級としてカウントしていましたが、令和10年度以降よりビジネス計算分野として一種目カウントに変更します。

○競技大会について

①検定試験の改変に準じ、次回71回大会より応用計算の「予定売価（定価）」の表記を「予定売価」とします。

②競技大会の申込方法の変更

令和6年度より、参加申込書は郵送ではなくメールで提出いただき、参加料は参加校から直接全商協会への振込に変更します。

③令和6年度71回大会の大会委員は徳島県から2名出すこと。（ローテーションにより）

④令和6年度日程

令和6年7月29日（月）大会打ち合わせ、大会準備（神奈川・横浜武道館）

30日（火）第71回全国高等学校ビジネス計算競技大会

（神奈川・横浜武道館）

○文部科学省初等中等教育局 視学官 田中圭様の講話より

- ・ビジネス基礎の授業の中で、ビジネス計算実務検定の指導は全時間のうち6分の1程度が望ましい。4月からまず経済社会や実務に興味関心を持たせた授業をした上で、指導をしていただきたい。
- ・新NISAなどが注目されているが、ビジネス計算で学んだ複利法と単利法のどちらで投資することが望ましいのかを考えさせるなど、実社会で生かせる指導をしていただきたい。
- ・また、検定を合格させて就職や進学につなげる指導ではなく、生徒が将来どのようなビジネス活動を担っていけるかを考えて指導をしていただきたい。3年後、5年後を見据えるのではなく、10年後・20年後の社会を見据えた教育を目指していただきたい。

徳島県立徳島商業高等学校

大山 菜摘